

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

後藤悦郎・清川智之

1. 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

2. 研究方法

飼育担当者から持ち込み、または巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3. 研究結果

本年度の主な疾病検査結果等は下表の通りであった。

月 日	魚種	発生場所	魚病診断結果・養魚指導内容等
4月13日	メガイアワビ	松江市鹿島町	前年度に引続き養殖アワビのへい死原因調査、飼育環境検討を行った。
4月21日	ハマチ	松江市島根町	へい死原因調査。4月上旬から1日4～5尾へい死。血合肉と肝臓貧血色、肝臓と脾臓肥大。栄養剤の投与指示。
5月11日	ハマチ	松江市島根町	4月21日と同じ。累積200尾/1200尾へい死。
5月17日	ハマチ	松江市島根町	4月21日と同じ。魚体重と肝臓、脾臓重量測定。対象群の肝臓は健康群の2倍以上の大きさ。
5月19日	錦鯉	松江市鹿島町	白点虫、ダクチロギルス寄生。KHV 検査陰性。投薬により治癒。
6月21日	メガイアワビ	松江市鹿島町	3月に養殖研究所にへい死原因調査を依頼していたが、原因はフランシセラ属細菌で人間には害がないとの報告があった。
7月5日	ハマチ	松江市島根町	へい死終息。貧血色、肝臓肥大は正常化した。
7月15日	メガイアワビ	出雲市大社町	放流用種苗へい死原因調査。5月10日頃からへい死。飼育環境悪化のためへい死していると判断し、早期放流を指示した。
7月13日	エゾアワビ	松江市鹿島町	エゾアワビのフランシセラ属細菌 PCR 検査を行ったが陰性であった。
8月29日	ヒラメ	浜田市	0歳魚は、体表が白っぽく鰓貧血。白点虫多数寄生。1歳魚は摂餌不良、調子不良で連鎖球菌症と判明。
9月12日	メガイアワビ	出雲市大社町	放流用種苗へい死検査。8月下旬からへい死、カゴの汚れによる換水不良、投餌した餌料の腐敗が原因と思われ、改善を指示した。
9月16日	メガイアワビ	出雲市多伎町	陸上、海面アワビ養殖養魚指導。調子良好。飼育方法、販売につき指導。
9月26日	カンパチ	松江市島根町	鹿児島県産3～4kgの1%以下の個体に見られる。筋肉中に黒点点在、孢子虫？
10月20日	キジハタ	浜田市	全長7～8cmを中間育成中に転覆症状、鰓多少貧血、検査によりVNNと判明。
3月27日	メガイ、エゾアワビ	松江市鹿島町	昨年春に罹病し治癒生残したメガイアワビ及びエゾアワビのフランシセラ属細菌 PCR 検査を行ったが陰性であった。